



第128号  
野毛山幼稚園  
横浜市西区老松町30  
TEL045-231-0150

### 思いやりや優しさって？

野毛山キリストの教会牧師

野毛山幼稚園園長

奈良昌人

#### ◇出川哲朗さん来園感謝！

日本テレビのバラエティ番組で、出川哲朗さんが横浜を巡るといふコーナーで、出川さんがどうしても野毛山幼稚園に行きたいと言われたという。この撮影のオフアワーがありました。出川さんは第19回生ふじ組。登園途中に野毛坂の交差点で車にひかれそうになったことがあってその後、前園長の金児榮治先生が毎日交差点で僕たちを迎えてくれたという幼稚園時代のエピソードを自身の人を思いやることの原点のよう話しておられ、その話を聞いた同行の女性も「うける」としておられた。このロケが行われたのは1月10日、約50年前と同様にこの交差点から野毛坂を上って幼稚園に来られたので、初めてお会いした出川さんの温かなお人柄に出会った。記憶の中にある野毛幼稚園で喜んだこと、懐かしさを覚えたこと、残った野毛山幼稚園時代の誇り、幼稚園時代の培った先輩の人

を思いやる心や、優しい心―を自慢するかのよう言葉で、本当に嬉しく思いました。

#### ◇帽子に目を留めてくださり感謝！

2月9日(木)の午後6時40分、園事務室の施錠をしようとした時に電話が鳴り、亜樹子先生が出ると、「園児さんの帽子を拾ったのですが、交番に届けた方がいいでしょうか。」とのことでした。亜樹子先生は「どちらで拾ったか。受け取りに伺いますが大変ですか。」とみらいのニトリの前におられるとのこと。「7時まででしたら時間がありません。私は白いコートを着ています。」とのお返事でした。急いでニトリの前に着くと、白いコートを着た若い女性が園帽子を持って近寄って来られました。亜樹子先生が「寒いところをお待たせして申し訳ありませんでした」とお伝えすると、「帽子が見つかった良かった。」と帽子をなくした側の気持ちになって、この言葉がとても優しく、心に響きました。

出川さんにしても、この女性にしても、どのようにしても「思いやりや優しさ」が身につくものなのではないでしょうか。

今年度、野毛山幼稚園の皆さんのために先生が教えてくださった「情緒の水」を読み返してみました。「情緒の水」を親が見て「きれいな」とい感情の「水」がたまると、二人の「人間性」「豊かな心」「人権感覚」

「道徳性」そのものなものである。清々しい気分になるとか、涙があふれるとか、ある時は「人が役に立つ喜びを成感した」とか、そうした人間の営み一つ一つに「情緒の水」を貯めていく。「いい保護者の子は、保護者だけでありません。保育者も同じです。」

「知る」ことは、「感じる」ことの半分も重要ではない」と言う『センス・オブ・ワンダー』の著者レイチェル・カールソンは、子どもには信頼できるおとなが一人いなければいけません。私は子どもが「傍らに立つて」情緒の水を一緒に貯める一人のおとなになること。イエスマンは、その最大のお本です。イエスマンは、十字架の上で母マリアに「婦人よ、御覧なさい。あなたの子どもです。」と言われ、弟子のヨハネに「見なさい。あなたの母です。」と言われました。ここには「自分の死が目前に迫る時も、わが子の極刑を目的にしたりして嘆き悲しむ母を思いやる主イエスの深い愛と配慮があります。この愛は神さまが教えてくださった愛（アガペーの愛）であり、この愛が私たち一人ひとりに注がれています。安心して一歩前へ踏み出しましょう。

卒業するコスモス組の皆さん、進級するスイトピー組、ゆり組の皆さん、おめでとうございます。